

平成 23 年 3 月 31 日

新潟青陵学会会長殿

平成 22 年度新潟青陵学会共同研究 報告書

1. 研究課題名

精神科看護者の肥満ケアの実施度とその要因に関する尺度作成の試み

2. 研究組織

代表者: 新潟青陵大学 看護 学科 職名: 准教授 氏名: 斎藤まさ子 分担者:

| 所 属        | 職 名 | 氏 名  |
|------------|-----|------|
| 新潟青陵大学看護学科 | 助手  | 内藤 守 |
|            |     |      |
|            |     |      |
|            |     |      |
|            |     |      |

3. 研究期間 平成 22 年4月1日 ~ 平成 23 年3月31日

4. 研究成果の概要(当該研究期間のまとめ)

本研究では、新潟県内の精神科病院で働く看護師147名を対象に、肥満ケアの実践に影響を与える要因を量的な調査により明らかにした。その際、肥満ケアの実践や、肥満ケアへの根気強さ、肥満ケアへの意識、精神科看護師等職業への向き合い方、精神科看護師としての身体管理への意識、自分の体重管理について測定するための尺度を作成した。また、菊池・原田(1997)の看護婦の自律性測定尺度を用いて、看護師の自律性も測定した。分析手順は、まず各尺度を主成分分析及び因子分析(最尤法・プロマックス回転)による尺度構成を行った。尺度に含まれるすべての項目の平均点を求め、尺度得点とした。さらに肥満ケアの実施に影響を与える要因を検討するために、仮説として作成したモデルを共分散構造分析によって検討した。

主成分分析及び因子分析の結果、作成した各尺度から「肥満ケアへの根気強さ」「肥満ケアの実践」「肥満と抗精神病薬への意識」「肥満ケア必要性への意識」「精神科看護師としての誇り」「精神科看護師の積極性」「精神科看護師としての身体管理への意識」「自分の体重管理」という因子が見いだされた。内的整合性を示す $\alpha$ 係数は、いずれもその後の分析に使用することができると評価できる値が得られた。菊池・原田(1997)の看護婦の自律性測定尺度は、「認知能力」「緊急時判断能力」「実践能力」「抽象的判断能力」「自立的判断能力」の5因子が見いだされた。 $\alpha$ 係数はいずれも十分な値が得られた。

各尺度得点を用いて、仮説として作成したモデルを共分散構造分析によって検討した。パス係数の有意確率と適合度指標を参考に最適なモデルを探索した。最終的なモデルの適合度指標はGFI=0.962, AGFI=0.874, CFI=1.000, RMSEA=0.294であり、モデルは受容できると判断した。その結果、「精神科看護師としての誇り」が「肥満ケアの実施」に直接的に正の影響を与えていることがモデル上支持された。

5. 交付決定額(配分額) 229,000 円 使用額 円

6. 研究発表

| 区分   | 学会誌名・学会名等 | 発表者       | 論文名・演題名等                   | 年 | 月 |
|------|-----------|-----------|----------------------------|---|---|
| 発表予定 | 新潟青陵学会    | 斎藤まさ子・内藤守 | 精神科看護師の肥満ケアの実施度とその要因に関する分析 |   |   |
| 投稿予定 | 新潟青陵学会誌   | 斎藤まさ子・内藤守 | 精神科看護師の肥満ケアの実施度とその要因に関する分析 |   |   |
|      |           |           |                            |   |   |

7 添付書類 枚  
※ 研究成果を発表した雑誌等の目次、研究発表会等のプログラムのコピーを添付のこと。